第７節　芸　　術

第１款　目　標

芸術の幅広い活動を通して，各科目における見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

(2) 創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。

第２款　各　科　目

第１　音楽Ⅰ

１　目　標

音楽の幅広い活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや，音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，音楽文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

２　内　容

Ａ　表　現

表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 歌唱

歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。

イ　次の(ｱ)から(ｳ)までについて理解すること。

(ｱ) 曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わり

(ｲ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり

(ｳ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴

ウ　創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な，次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。

(ｱ) 曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能

(ｲ) 他者との調和を意識して歌う技能

(ｳ) 表現形態の特徴を生かして歌う技能

(2) 器楽

器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ　次の(ｱ)から(ｳ)までについて理解すること。

(ｱ) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり

(ｲ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり

(ｳ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴

ウ　創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な，次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。

(ｱ) 曲にふさわしい奏法，身体の使い方などの技能

(ｲ) 他者との調和を意識して演奏する技能

(ｳ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能

(3) 創作

創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。

イ　音素材，音を連ねたり重ねたりしたときの響き，音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解すること。

ウ　創意工夫を生かした創作表現をするために必要な，次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。

(ｱ) 反復，変化，対照などの手法を活用して音楽をつくる技能

(ｲ) 旋律をつくったり，つくった旋律に副次的な旋律や和音などを付け